

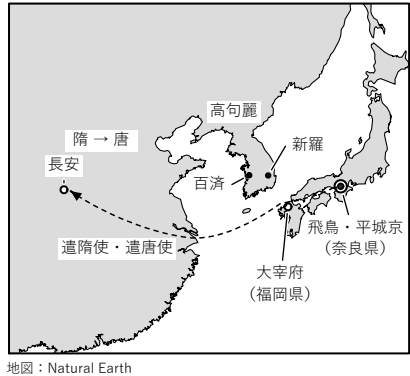
1 全体像	2・3 聖徳太子	4・5 大化の改新	6・7 律令国家	8・9 くらし	10・11 文化	12 まとめ
-------	----------	-----------	----------	---------	----------	--------

1
この単元の全体像 ― 天皇を中心とする国は、どのようにしてできた？

このページのゴール
飛鳥時代と奈良時代の国づくりの流れと、この単元で学ぶ5つのことを、ざっと言える

⑦では、大和政権が各地の豪族に従え、大王を中心にまとまったことを学びました。でも、それぞれの土地と人々を治めていたのは、まだ豪族たちでした。6世紀の終わりから8世紀にかけて、中国（隋・唐）を手本に、天皇を中心とする国のしくみ（**律令国家**）がつくられていきます。小学校で学んだ聖徳太子・大化の改新・聖武天皇と大仏を、「国のしくみづくり」の流れで見直します。

飛鳥時代（6世紀の終わりから）	奈良時代（710年から約80年）
都は飛鳥・藤原京。天皇を中心とする国づくりが始まった	都は平城京。国のしくみが整い、仏教の文化が栄えた
聖徳太子の政治（2・3）→大化の改新（4・5）→大宝律令（6）→平城京（7）→天平文化（10・11）（ ）はページ	



①
聖徳太子の国づくり
くわしくは2・3ページ

隋を手本にした国づくりを学びます。

②
大化の改新と東アジア
くわしくは4・5ページ

蘇我氏を倒した改革と外国との戦いを学びます。

③
律令国家のしくみと平城京
くわしくは6・7ページ

唐にならった国のしくみと都を学びます。

④
人々のくらしと土地のきまり
くわしくは8・9ページ

税の負担と土地のきまりの変化を学びます。

⑤
聖武天皇と天平文化
くわしくは10・11ページ

仏教の力で国を守ろうとした天皇と文化を学びます。

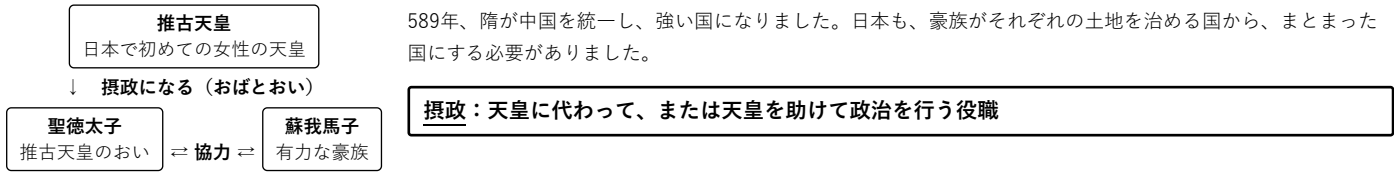
この単元の問い
日本は、大陸（中国・朝鮮半島）とどのように関わりながら、天皇を中心とする国（律令国家）をつくっていった？（答えは12ページ）

この単元の解説記事（図と例題つき・かてきょノート（katekyo-note.com））：
 飛鳥時代 <https://katekyo-note.com/%e3%80%90e4%b8%ad1%e7%a4%be%e4%bc%9a%e3%83%bb%e6%ad%b4%e5%8f%b2%e3%80%91%e9%a3%9b%e9%b3%a5%e6%99%82%e4%bb%a3%e3%81%ae%e8%a6%81%e>
 律令国家と奈良時代 <https://katekyo-note.com/%e3%80%90e4%b8%ad1%e7%a4%be%e4%bc%9a%e3%83%bb%e6%ad%b4%e5%8f%b2%e3%80%91%e5%be%8b%e4%bb%a4%e5%9b%bd%e5%ae%b6%e3%81%a8%e5%a5%88%e>

2 聖徳太子は、どんな国をめざした？

このページのゴール 聖徳太子が推古天皇の摂政として、冠位十二階と十七条の憲法で、天皇を中心とする国をつくろうとしたことを、目的といっしょに言える

① 聖徳太子が政治を始めたころ



天皇の宮が飛鳥地方（奈良盆地の南部）に置かれたので、このころを飛鳥時代といいます。

② 冠位十二階と十七条の憲法

	年	どんなきまり	だれに向けて	ねらい
冠位十二階	603年	才能や功績のある人を役人に取り立てる（位を12に分け、冠の色などで区別した）	役人になる人	家がらにとらわれず、天皇のもとで働く人を選ぶ
十七条の憲法	604年	役人の心構えを示した	役人	天皇の命令に従い、仏教を大切に、まともに働く

史料 十七条の憲法（一部）
一に曰く、和をもって貴しとなし…（人の和を大切にしろ）
二に曰く、あつく三宝を敬え（三宝＝仏・仏の教え・僧。仏教を大切にしろ）
三に曰く、詔をうけたまわりては必ずつつしめ（天皇の命令には必ず従いなさい）
（ ）の中は意味。今の憲法や法律とはちがひ、役人の心構えを示したもの

	それまで	聖徳太子の政治
役人の選び方	豪族の家がらで役目が決まる	才能や功績で選び、天皇が位をあたえる
役人の心がまえ	—	十七条の憲法で示す

聖徳太子の政治の目的＝天皇を中心とする政治のしくみをつくること（手本は中国）

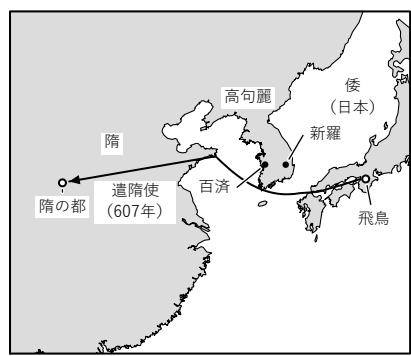
→ 家がらではなく、天皇のもとで働く役人を選ぶしくみが始まった

注意 × 十七条の憲法は、国民が守る法律だった → ○ 役人の心構えを示したもの

合言葉 「冠位は人を選ぶ、憲法は心構え」

3 聖徳太子は、なぜ隋に使いを送った？

このページのゴール 遣隋使の目的と、隋への手紙で示そうとした立場、飛鳥文化の特色を言える



地図：Natural Earth

- 天子＝国をおさめるいちばん上の人。日本の王にも、隋の皇帝と同じ「天子」を使った → 隋と対等な立場で付き合いおうとした（隋の皇帝は腹を立てましたが、国交は続きました）

	⑦の倭の五王（南朝の宋）	遣隋使（隋）
めざしたこと	中国の皇帝に、高い地位を認めてもらう	隋と対等な立場で付き合い、進んだ制度や文化を学ぶ

② 飛鳥文化



法隆寺（金堂と五重塔）
（奈良県斑鳩町）



釈迦三尊像
（法隆寺の金堂）

写真：Saigen Jiro (CC0)、『Histoire de l'art du Japon』1900
（パブリックドメイン）。Wikimedia Commons より、白黒にした

飛鳥文化：飛鳥地方を中心に栄えた、日本で最初の仏教文化

渡来人の子孫が活躍し、朝鮮半島や中国、さらにインドや西アジアの文化の影響も受けました。聖徳太子が建てたと伝えられる法隆寺は、現存する世界最古の木造建築で、世界遺産です。金堂には釈迦三尊像（しゃかさんぞんぞう）がまつられています。

→ 隋と対等に付き合い、進んだ制度や文化を国づくりに取り入れようとした

注意 × 遣隋使は、隋の皇帝に王として認めてもらうために送られた → ○ それは倭の五王のころ。遣隋使は対等な立場を示そうとした

4 大化の改新で、国のしくみはどう変わった？

このページのゴール 645年に中大兄皇子と中臣鎌足が始めた改革と、公地公民の意味を言える

① 大化の改新が始まるまで

- ① 聖徳太子の死後、蘇我氏（蘇我蝦夷（そがのえみし）・蘇我入鹿（そがのいるか）の親子）が、天皇をしのぐほどの大きな力をもった
→ 豪族の力が強いままでは、天皇を中心とする国になりません
- ② 中国では618年に唐がおこり、律令（6ページ）で国を治める強い国になった。隋・唐で学んで帰った留学生や僧が、唐のしくみを日本に伝えた
→ 手本になる国のしくみが分かりました
- ③ 645年、中大兄皇子（なかのおおえのおうじ）と中臣鎌足（なかとみのかまたり）が蘇我氏を倒した
- ④ 唐の制度にならい、天皇を中心とする国づくりの改革を始めた＝大化の改新
「大化」は、日本で初めての年号とされています。中臣鎌足は、のちに「藤原」の姓を天皇からあたえられ、藤原氏の祖先となりました。

② 公地公民

公地公民：それまで皇族や豪族が支配していた土地と人々を、国が直接支配すること

	それまで	公地公民
土地	皇族や豪族のもの	国のもの
人々	豪族が治める	国が直接治める
治める中心	豪族たち	天皇を中心とする国

方針と、しくみのちがい
公地公民は、大化の改新で示された**方針**です。それを全国で動かすしくみ（戸籍・口分田・国司など）が整うのは、701年の大宝律令のときです（6・8ページ）。

③ このあと、どうなった？

改革は少しずつ進みました。その途中で外国との戦い（白村江の戦い）や国内の争い（壬申の乱）が起こり（5ページ）、701年の大宝律令でしくみが整います（6ページ）。

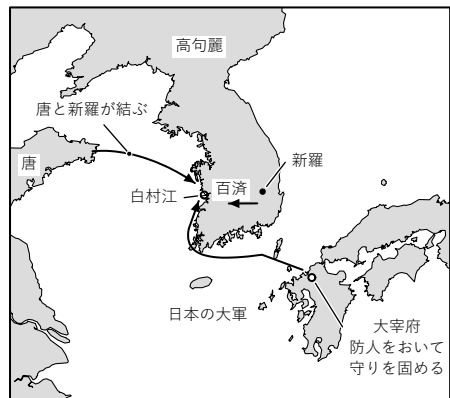
→ **土地と人々を国が直接治めるという方針が示された**

注意 × 大化の改新は、蘇我入鹿を倒した事件のこと → ○ それをきっかけに始まった、政治の改革全体

合言葉 「蘇我を倒して、土地も人も国のもの」

5 東アジアの緊張の中で、国づくりはどう進んだ？

このページのゴール 白村江の戦いと壬申の乱をへて、守りが固められ、天皇の力が強まって律令づくりが進んだ流れを、東アジアの動きとつなげて言える



地図：Natural Earth

中大兄皇子は、のちに即位して天智天皇になりました。

① 白村江の戦い

- ① 唐と新羅が結んで、百済をほろぼした
- ② 日本（倭）は百済を助けようと、大軍を送った
- ③ 663年、白村江の戦い（はくそんこうのたたかい）で、唐と新羅の連合軍に大敗した
- ④ 唐や新羅が攻めてくることに備え、九州北部に防人（さきもり）、西日本に山城を置いて、守りを固めた

② 壬申の乱と天武天皇

672年、天智天皇の死後、あとつぎをめぐって、壬申の乱（じんしんのらん）が起きました。天智天皇の弟の大海人皇子（おおあまのおうじ）が勝ち、即位して天武天皇になりました。

天武天皇の政治：天皇の力を強め、律令や歴史書づくりを進めた

「天皇」という称号や「日本」という国の名は、このころから使われるようになったと考えられています。天武天皇の死後、妻の持統天皇が、日本で初めての本格的な都、藤原京をつくりました。

東アジアの動き	日本の動き
589年 隋が中国を統一	聖徳太子の政治・遣隋使
618年 唐がおこる	645年 大化の改新
唐と新羅が百済をほろぼす	663年 白村江の戦い。守りを固める
唐や新羅が攻めてくるおそれが続く	672年 壬申の乱。天武天皇が天皇の力を強める
唐は律令で国を治める大帝国	701年 大宝律令（6ページ）

→ 外国への備えと天皇の力の強まりの中で、律令づくりが進んだ

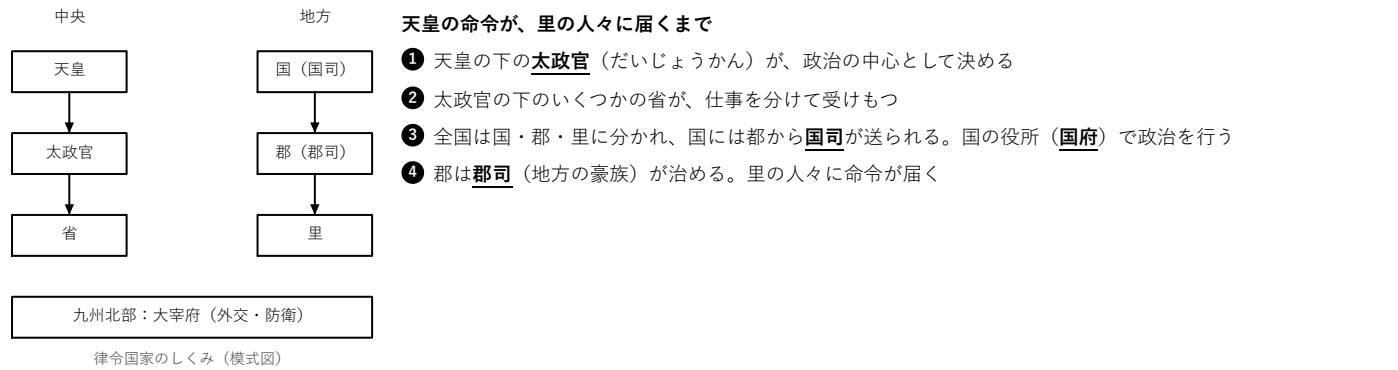
注意 × 白村江の戦いで、日本は唐と新羅に勝った → ○ 大敗して、守りを固めた

6 大宝律令で、国のしくみはどうなった？

このページのゴール 701年の大宝律令で律令国家ができたことと、中央と地方のしくみを言える

大宝律令（701年）：唐の律令にならってつくられた。律＝刑罰のきまり、令＝政治のしくみや税などのきまり。律令にもとづいて政治を行う国を律令国家という

① 中央と地方のしくみ



② 国司と郡司

	だれがなる	どこから	どこで
国司	貴族	都から送られる	国府で政治を行う
郡司	地方の豪族	その地方の人が任命される	郡の役人として働く

九州北部には大宰府（だざいふ。「大」に点はつけません）が置かれ、外国との交渉（外交）と九州の防衛にあたりました。5ページの白村江の戦いのあとの守りとつながります。

③ 大化の改新の方針が、しくみになった

	大化の改新の方針	大宝律令のしくみ
土地と人々	公地公民	戸籍と口分田（8ページ）
政治	天皇を中心とする国	太政官と省
地方	地方も国が直接治める	国・郡・里と、国司・郡司

→ 文字のきまり（律令）で、天皇を中心に全国を治めるしくみができた

注意 × 国司には、その地方の豪族が任命された → ○ 国司は都から送られた貴族。地方の豪族は郡司

合言葉 「国司は都から、郡司は地元の豪族」

7 平城京は、どんな都だった？

このページのゴール 710年に、唐の長安にならって奈良に平城京がつくられたこと、都のようすと奈良時代を言える



平城京（710年）：唐の都長安にならって、奈良につくられた都。都が平城京にあった約80年間は奈良時代という（794年に平安京へ。次の単元）

平城宮の朱雀門（復元）
（奈良県奈良市）

写真：Cun Cun（CC BY-SA 4.0）、国立文化財機構（CC BY 4.0）。
Wikimedia Commons より、白黒にして切り取った

和同開珎

長安にならった所	平城京
碁盤の目の道路	道路が区画された
北の中央に宮	<u>平城宮</u> （天皇の住まいと役所）
南へ大通り	<u>朱雀大路</u> （すざくおおじ）
東と西に市	東市・西市

都に何が集まった？

- ① 全国から、調・庸などの品物が運ばれた（8ページ）
- ② 東市・西市で、産物が売り買いされた
- ③ 和同開珎などの貨幣がつくれ、市で使われた

→ 律令国家の中心として、唐にならった都ができた

注意 × 平城京は、今の京都につくられた → ○ 奈良につくられた（京都は次の単元の平安京）

合言葉 「なんと（710）りっぱな平城京」

8 律令のもとで、人々はどんな負担をした？

このページのゴール 班田収授法のしくみと、租・調・庸・雑徭・兵役を、何を・どこへといっしょに言える

班田収授法（はんでんしゅうじゅのほう）：戸籍にもとづいて、人々に口分田（くぶんでん）という田をあたえ、死ぬと国に返させるしくみ

- ① 6年ごとに戸籍をつくる
- ② 6歳以上のすべての男女に口分田をあたえる
- ③ 口分田を受けた人は税を納め、死ぬと口分田を国に返す（売り買いはできない）

名前	何を	どこへ・どうする
<u>租</u>	口分田の収穫の約3%の稲（100束なら約3束）	地方の役所（国府）へ
<u>調</u>	地方の特産物（絹・糸・海産物など）	自分たちで都まで運ぶ
<u>庸</u>	都で働く（労役）かわりの布	自分たちで都まで運ぶ
<u>雑徭</u> （ぞうよう）	地方で、1年に60日以内の労役（土木工事など）	—
<u>兵役</u>	兵士としての訓練。都の警備や、九州北部の守り（防人。3年間）につく者もいた	武器や食料は自分で用意

調・庸・雑徭・兵役は、おもに成人の男子にかけられました（租は口分田を受けた人にかかります）。

木簡（もっかん）



木簡
（平城京の跡で発見）

写真：
奈良国立文化財研究所平
城京跡発掘調査部（CC
BY-SA 4.0）。Wikimedia
Commons より、
白黒にして切り取った

都に運ばれる税の品物などには、どこの国・郡・里のだれが、何を、どれだけ納めたかを書いた木の札、木簡が付けられました。平城京の跡などから、たくさん見つかっています。

防人は、5ページの白村江の戦いのあと、九州北部の守りについた兵士です。

→ 国が戸籍で人々をつかみ、口分田をあたえて税を集めた

注意 × 口分田は、あたえられた人の物になり、子どもに残せた → ○ 死ぬと国に返した

合言葉 「租は稲、調は特産物、庸は布」

9 口分田が足りなくなると、土地のきまりはどう変わった？

このページのゴール 重い負担と口分田の不足から墾田永年私財法が出され、荘園が生まれて公地公民がくずれ始めた流れを言える

① 苦しいくらし

租・調・庸などの負担は重く、たえられずに口分田を捨てて逃げ出す人もいました。『万葉集』の山上憶良（やまのうえのおくら）の「貧窮問答歌（ひんきゅうもんどうか）」には、農民の苦しいくらしがよまれています。

② 土地のきまりが変わるまで

- ① 人口が増え、荒れた田も増えた
- ② 口分田が足りなくなった
→ 国にあたえる土地が足りません
- ③ 743年、**墾田永年私財法**（こんでんえいねんしざいほう）が出された：新しく開墾した土地は、いつまでも自分の物にしてよい
- ④ 人手と費用のある貴族・寺社・豪族が開墾して、私有地を広げた。これらの私有地は、のちに**荘園**（しょうえん）とよばれる
- ⑤ **公地公民**の原則が、くずれ始めた

③ 漢字で読む

墾田	永年	私財
新しく開墾した田	いつまでも	自分の財産

④ 2つの法のくらべ

	班田収授法	墾田永年私財法
田はだれの物	国	開墾した田は、開墾した人
子どもに残せるか	残せない（死ぬと国に返す）	いつまでも自分の物
土地を広げられた人	—	人手と費用のある貴族・寺社・豪族

荘園：貴族・寺社・豪族などが広げた私有地（のちにこうよばれた）

→ 国が土地と人々を直接治めるしくみが、くずれ始めた

注意 × 墾田永年私財法で、農民がみんな豊かになった → ○ 開墾できたのはおもに貴族・寺社・豪族で、公地公民がくずれ始めた

合言葉 「開いた田はいつまでも私財、公地公民がくずれ始める」

10 聖武天皇は、なぜ大仏をつくった？

このページのゴール 社会の不安と、仏教の力で国を守ろうとした聖武天皇の政治（国分寺・国分尼寺・東大寺と大仏）、行基と鑑真を言える

① 聖武天皇の政治

- ① 奈良時代の中ごろ、病気の流行・ききん・反乱が続いた
- ② 社会が不安定になった
- ③ **聖武天皇**は、仏教の力で国を守り、社会の不安をしずめようとした
- ④ 国ごとに**国分寺**と**国分尼寺**、都に**東大寺**を建て、金銅の**大仏**をつくらせた

都（平城京）
東大寺と大仏

と

地方の国ごと
国分寺・国分尼寺



東大寺の大仏殿
（奈良県奈良市）

東大寺の大仏

写真：663highland（CC BY 2.5）、Manishprabhune（CC BY-SA 4.0）。
Wikimedia Commons より、白黒にした

国は、6ページで学んだ、国司が政治を行う単位です。

② 行基と鑑真

	行基	鑑真（がんじん）
どこの人	日本の僧	唐（中国）の高僧
したこと	民衆の間で仏教を広め、橋や用水路・道などをつくった	正しい仏教の教え（戒律）を伝えるため、何度も渡航に失敗し、目が見えなくなりながらも来日した
朝廷との関係	はじめ活動を取りしまられたが、のちに大仏づくりに協力した	来日して、教えを伝えた
関係する寺	東大寺	唐招提寺（とうしょうだいじ）を開いた

なぜ、行基の協力が必要だった？
大仏づくりには、多くの人の力が要りました。民衆にしたわれていた行基に、朝廷が協力を求めました。

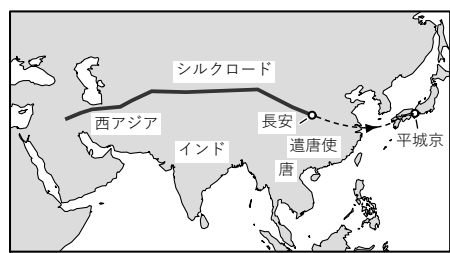
→ 天皇は、仏教の力で国をまとめ、守ろうとした

注意 × 鑑真は、遣唐使として唐にわたった日本の僧 → ○ 唐から来日した僧

合言葉 「国ごとに国分寺、都に東大寺と大仏」

11 天平文化は、なぜ国際色豊かになった？

このページのゴール 遣唐使が唐の文化をもたらしたことで、正倉院の宝物・書物から、天平文化の特色を言える



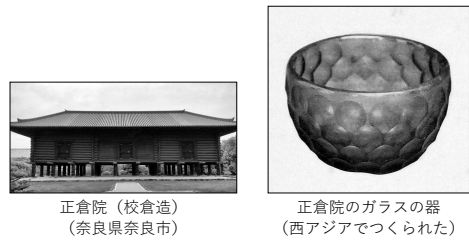
地図：Natural Earth

① 遣唐使と正倉院の宝物

遣唐使は、630年から、唐の制度や文化を学ぶためにたびたび送られました。

- ① 西アジアやインドの品物や文化が、シルクロード（絹の道）を通して唐の都長安へ
- ② 遣唐使が、唐の文化や品物を日本へ持ち帰る
- ③ 聖武天皇が使った品々などが、東大寺の正倉院に納められた

天平文化（てんぴょうぶんか）：聖武天皇のころに栄えた文化。遣唐使がもたらした唐の文化の影響を強く受けた、国際色豊かな仏教文化



正倉院（校倉造）
（奈良県奈良市）

正倉院のガラスの器
（西アジアでつくられた）

写真：Drivephotographer（CC0）、宮内庁（パブリックドメイン）。
Wikimedia Commons より、白黒にして切り取った

正倉院（しょうそういん）は、三角形に近い形の木材を組み合わせた校倉造（あぜくらづくり）の倉です。納められた宝物の中には、西アジアやインドの影響を受けた物もあります。

② 書物

書物（年）	種類	内容
『古事記』（712年） 『日本書紀』（720年）	歴史書	神話や伝承、国の成り立ち、天皇が国を治めてきた由来などをまとめた
『風土記』	地理書	国ごとに、地名の由来・産物・伝説などをまとめた
『万葉集』	和歌集	天皇や貴族から、防人や農民の歌まで、約4500首を集めた

万葉仮名って？ 漢字の音を使って、日本語を書き表した（万葉仮名）。例：「はる」を「波流」、「やま」を「夜麻」と書いた。

→ 唐から取り入れた文化が、都を中心に花開いた

注意 ×『万葉集』は、天皇や貴族の歌だけを集めた → ○ 防人や農民の歌も集められている

1 全体像	2・3 聖徳太子	4・5 大化の改新	6・7 律令国家	8・9 くらし	10・11 文化	12 まとめ
-------	----------	-----------	----------	---------	----------	--------

12

日本は、大陸とどのように関わりながら、律令国家をつくった？

このページのゴール
6つのできごとを表でくらべて、律令国家ができるまでの流れを、大陸とのつながりといっしょに言える（1ページの問いの答え）

①

6つのできごとをくらべる

	大陸の動き・取り入れた物	日本でしたこと	国づくりで進んだこと
聖徳太子の政治	隋が中国を統一。進んだ制度や文化を学ぶ	冠位十二階・十七条の憲法・遣隋使	家がらではなく、天皇のもとで働く役人を選ぶしくみが始まった
大化の改新	唐がおこる。留学生や僧が唐のしくみを伝えた	蘇我氏を倒し、公地公民の方針を示した	土地と人々を国が直接治める方針
白村江の戦いと壬申の乱	唐と新羅が百済をほろぼす	大敗して守りを固めた。天武天皇が天皇の力を強めた	外国への備えと、天皇の力の強まり
大宝律令と平城京	唐の律令・長安	律令国家のしくみと、平城京をつくった	文字のきまりで、天皇を中心に全国を治める
奈良時代の人々と土地	唐の律令にもとづく税	班田収授法。口分田が足りず、墾田永年私財法	公地公民がくずれ始めた
天平文化	遣唐使が唐の文化を持ち帰る。シルクロードの品物	国分寺・東大寺と大仏。正倉院	仏教で国を守る。国際色豊かな文化

②

年表

年	できごと	年	できごと	年	できごと
589年	隋が中国を統一	630年	遣唐使が始まる	710年	平城京
603年	冠位十二階	645年	大化の改新	712年	古事記
604年	十七条の憲法	663年	白村江の戦い	720年	日本書紀
607年	遣隋使（小野妹子）	672年	壬申の乱	743年	墾田永年私財法
618年	唐がおこる	701年	大宝律令	794年	平安京（次の単元）

③

問いの答えの例

隋・唐が強い国になり、朝鮮半島でも争いが続く中で、日本は隋・唐に使いを送り、進んだ制度や文化を学びました。聖徳太子の政治、大化の改新をへて、白村江の戦いの後は守りを固め、天皇の力を強めました。そして唐にならった大宝律令と平城京で、天皇を中心とする律令国家ができました。一方で、重い負担や口分田の不足から墾田永年私財法が出され、公地公民はくずれ始めました。

注意

× 律令国家は、日本だけで考えたしくみだった → ○ 唐の律令・長安・文化を手本にした

確認問題① 聖徳太子の政治・隋との交流・7世紀の改革

答えと解説は17・18ページ（9枚目の紙）にあります。【 】は、わからないときに読み直すページです。

1 聖徳太子の政治について答えなさい。【2ページ】

- (1) 天皇に代わって、または天皇を助けて政治を行う役職を何といいますか。 _____
- (2) 聖徳太子は、(1)の役職について、おばである、日本で初めての女性の天皇を助けました。この天皇はだれですか。 _____
- (3) 聖徳太子と協力して政治を進めた、有力な豪族はだれですか。 _____
- (4) 603年に定められた、位を12に分け、冠の色などで区別したしきみを何といいますか。 _____
- (5) 604年に定められた十七条の憲法の「一に曰く、【 】をもって貴しとなし」の【 】にあてはまる漢字1字を書きなさい。（人と人が仲よくまとまることを大切にしない、という意味） _____
- (6) 正しいものには○、まちがっているものには×を書きなさい。十七条の憲法は、国民が守る法律だった。 _____
- (7) (4)のしきみを聖徳太子が定めたねらいを書きなさい。 _____

2 7世紀の初めの外国との交流と文化について答えなさい。【3ページ】

- (1) 607年、聖徳太子が隋に送った使いを何といいますか。 _____
- (2) (1)の使いの代表として、隋にわたった人物はだれですか。 _____
- (3) (1)の使いを送った目的として正しいものを選びなさい。
ア 隋の進んだ制度や文化を学ぶため イ 隋の皇帝に王として認めてもらうため ウ 隋と戦うため エ 隋に米や布を売るため _____
- (4) 隋への手紙に、隋の皇帝と同じ「天子」という言葉を使ったのは、どのような立場を示そうとしたからですか。正しいものを選びなさい。
ア 隋の家来になる立場 イ 隋より上の立場 ウ 隋と対等な立場 エ 朝鮮半島の国々より下の立場 _____
- (5) このころ、飛鳥地方を中心に栄えた文化の特色として正しいものを選びなさい。
ア 武士を中心に栄えた文化 イ 日本で最初の仏教文化 ウ 米づくりが広まって栄えた文化 エ 平城京を中心に栄えた文化 _____
- (6) 聖徳太子が建てたと伝えられ、現存する世界最古の木造建築とされる寺を何といいますか。 _____
写真A～Cは、飛鳥時代と奈良時代の寺や倉の写真です。
- (7) (6)の寺は、A～Cのどれですか。 _____



A



B



C

写真：Manishprabhune（CC BY-SA 4.0）、Saigen Jiro（CC0）、
Drivephotographer（CC0）。Wikimedia Commons より、
白黒にして切り取った

3 7世紀なかばの政治の改革について答えなさい。【4ページ】

- (1) 645年、蘇我氏を倒した、皇族の人物はだれですか。 _____
- (2) (1)とともに蘇我氏を倒した人物はだれですか。 _____
- (3) このとき倒された、蘇我氏の親子はだれとだれですか。 _____
- (4) 蘇我氏を倒したあとに始まった、天皇を中心とする国づくりの改革を何といいますか。 _____
- (5) この改革で示された、公地公民の説明として正しいものを選びなさい。
ア 豪族が、それぞれの土地と人々を自由に治める イ 農民が、土地を自由に売り買いする ウ 皇族や豪族が支配していた土地と人々を、国が直接支配する
エ 寺が、土地と人々を治める _____
- (6) 正しいものには○、まちがっているものには×を書きなさい。(4)は、蘇我氏を倒した1つの事件だけを指す言葉である。 _____

確認問題② 東アジアと日本・国のしくみ・都

4 東アジアの動きと日本について答えなさい。【5ページ】

次の表の（1）（2）にあてはまることを書きなさい。

東アジアの動き	日本の動き
589年 隋が中国を統一	(1) _____
(2) _____	645年 大化の改新
唐と新羅が百済をほろぼす	663年 白村江の戦い。守りを固める

- (3) 白村江の戦いのあと、九州北部の守りについた兵士を何とといいますか。 _____
- (4) 白村江の戦いのあと、守りを固めるために西日本に築かれた物として正しいものを選びなさい。
ア 古墳 イ 山城 ウ 高床倉庫 エ 大仏殿 _____
- (5) 672年に起こった壬申の乱に勝ち、即位した天皇はだれですか。 _____
- (6) 次のア～エを、古い順に並べなさい。
ア 壬申の乱 イ 平城京 ウ 大化の改新 エ 白村江の戦い _____
- (7) 持統天皇がつくった、日本で初めての本格的な都を何とといいますか。 _____
- (8) 中大兄皇子は、のちに即位して何という天皇になりましたか。 _____

5 701年にできた国のしくみについて答えなさい。【6ページ】

- (1) 唐の律令にならってつくられた、701年の法律を何とといいますか。 _____
- (2) (1) にもとづいて政治を行う国を何とといいますか。 _____
- (3) (1) の「律」と「令」の説明として正しいものを選びなさい。
ア 律＝政治のしくみや税などのきまり、令＝刑罰のきまり
イ 律＝刑罰のきまり、令＝政治のしくみや税などのきまり _____
- (4) 天皇のもとに置かれ、政治の中心となった役所を何とといいますか。 _____
- (5) 国司と郡司の説明として正しいものを選びなさい。
ア 国司＝都から送られた貴族、郡司＝地方の豪族
イ 国司＝地方の豪族、郡司＝都から送られた貴族 _____
- (6) 九州北部に置かれ、外交と九州の防衛にあたった役所を、漢字で書きなさい。 _____
- (7) 全国を国に分けたとき、郡の下に置かれたものは何ですか。 _____
- (8) 国司が、国の役所で政治を行いました。この役所を何とといいますか。 _____

6 奈良の都について答えなさい。【7ページ】

北
↑

		ア		
● エ				● ウ

イ

平城京の略図（北が上）

(1) 平城京がつくられたのは何年ですか。 _____

(2) 平城京は、唐のどこの都になりましたか。 _____

(3) 図のアは、天皇の住まいや役所があった場所です。名前は？ _____

(4) 図のイは、アから南へのびる大きな道です。名前は？ _____

(5) 図のウの市を、何とといいますか。 _____

(6) 都が平城京にあった約80年間を何とといいますか。 _____

(7) 平城京の市などで使われた貨幣を何とといいますか。 _____

(8) 平城京の道路は、() の目のように区画されていました。() にあてはまる語は何ですか。 _____

確認問題③ 人々の負担と土地・仏教と文化・まとめ

7 人々の負担と土地のきまりについて答えなさい。【8・9ページ】

- (1) 6年ごとに戸籍をつくり、6歳以上の男女に土地をあたえた、律令のもとでのしくみを何といいますか。 _____
- (2) (1) で、あたえられ、死ぬと国に返させた土地を何といいますか。 _____
- 次の表の (3) ～ (5) にあてはまる語や文を書きなさい。

名前	何を	どこへ・どうする
租	(3) _____	地方の役所（国府）へ
調	地方の特産物（絹・糸・海産物など）	(4) _____
庸	(5) _____	(4) と同じ

- (6) 743年に定められ、新しく開墾した土地をいつまでも自分の物にしてよいと認めた法律を何といいますか。 _____
- (7) 貴族・寺社・豪族が広げた私有地は、のちに何とよばれるようになりましたか。 _____
- (8) (6) が出されると、公地公民の原則がくずれ始めたのはなぜですか。「開墾」「私有地」の2つの言葉を使って書きなさい。

8 仏教と文化について答えなさい。【10・11ページ】

- (1) 聖武天皇が建てさせた寺の説明として正しいものを選びなさい。
ア 国ごとに東大寺、都に国分寺
イ 国ごとに国分寺、都に東大寺 _____
- (2) 民衆の間で仏教を広め、橋や用水路をつくった僧と、唐から来日した僧の組み合わせとして正しいものを選びなさい。
ア 民衆に広めた僧＝行基、唐から来日した僧＝鑑真
イ 民衆に広めた僧＝鑑真、唐から来日した僧＝行基 _____
- (3) 唐から来日した僧が開いた寺を何といいますか。 _____
- (4) 630年から、唐の制度や文化を学ぶために送られた使いを何といいますか。 _____
- (5) 東大寺に建てられ、聖武天皇が使った品々などが納められている倉を何といいますか。 _____
- (6) 聖武天皇のころに栄えた文化の特色として正しいものを選びなさい。
ア 武士の力を表した、力強い文化
イ 米づくりのまつりを中心とした文化
ウ 唐の影響を強く受けた、国際色豊かな仏教文化
エ 日本で最初の仏教文化 _____
- (7) 国ごとに、地名の由来や産物などをまとめた書物を何といいますか。 _____
- (8) 『万葉集』などで、漢字の音を使って日本語を書き表した方法を何といいますか。 _____

9 律令国家ができるまでをまとめましょう。【12ページ】

次の表の (1) ～ (4) にあてはまることを書きなさい。

	大陸の動き	日本でしたこと
聖徳太子の政治	隋が中国を統一。進んだ制度や文化を学ぶ	(1) _____
大化の改新	(2) _____ の制度を伝える留学生や僧	蘇我氏を倒し、公地公民の方針を示した
白村江の戦い	唐と新羅の連合軍	(3) _____
平城京	唐の都(4) _____ にならう	律令国家の中心となる都をつくった

- (5) 次のア～オを、古い順に並べなさい。
ア 大宝律令 イ 『日本書紀』ができる ウ 大化の改新 エ 平城京 オ 白村江の戦い _____

覚えることの一覧（何も見ずに書けるか、紙でかくして確かめよう）

聖徳太子の政治（2ページ）

聖徳太子は、推古天皇（日本で初めての女性の天皇）の摂政（天皇を助けて政治を行う役職）となり、蘇我馬子と協力した。603年 冠位十二階（才能や功績のある人を役人に取り立てた）／604年 十七条の憲法（役人の心構え。和を大切に・仏教を敬う・天皇の命令に従う など）。目的＝天皇を中心とする政治のしくみをつくること。

遣隋使と飛鳥文化（3ページ）

607年 遣隋使（小野妹子）。目的＝隋の進んだ制度や文化を学ぶ。手紙の「日出づる処の天子…」＝同じ「天子」を使い、隋と対等な立場を示そうとした。飛鳥文化＝日本で最初の仏教文化。法隆寺（聖徳太子が建てたと伝えられる、現存する世界最古の木造建築、世界遺産）・釈迦三尊像。

大化の改新（4ページ）／白村江の戦いと壬申の乱（5ページ）

645年、中大兄皇子・中臣鎌足が蘇我氏（蘇我蝦夷・蘇我入鹿）を倒し、唐の制度にならって改新（大化の改新）を始めた。公地公民＝土地と人々を国が直接支配。663年 白村江の戦い（唐・新羅の連合軍に大敗。九州北部に防人、西日本に山城）。中大兄皇子は天智天皇に。672年 壬申の乱（大海人皇子が勝ち天武天皇に。天皇の力を強め、律令づくりを進めた）。持統天皇が藤原京をつくった。

大宝律令と律令国家（6ページ）／平城京（7ページ）

701年 大宝律令（律＝刑罰のきまり、令＝政治のしくみや税などのきまり。律令にもとづく国＝律令国家）。中央＝天皇→太政官→省。地方＝国（国司＝都の貴族）→郡（郡司＝地方の豪族）→里。九州に大宰府（外交と防衛）。710年、唐の長安にならってつくられた平城京（基盤の目の道路・平城宮・朱雀大路・東市・西市・和同開珎）。約80年間＝奈良時代。

班田収授法と人々の負担（8・9ページ）

6年ごとに戸籍→6歳以上に口分田→死ぬと国に返す。木簡＝税の品物に付けた札。

名前	何を	どこへ
租	口分田の収穫の約3%の稲	地方の役所（国府）へ
調	地方の特産物	自分たちで都へ運ぶ
庸	都で働くかわりの布	自分たちで都へ運ぶ
雑徭	地方での労役（年60日以内）	－
兵役	訓練・防人（3年）	武器・食料は自分で用意

743年 墾田永年私財法＝新しく開墾した土地をいつまでも自分の物にしてよい。貴族・寺社・豪族が私有地（のちの荘園）を広げ、公地公民の原則がくずれ始めた。

聖武天皇と天平文化（10・11ページ）

病気の流行・ききん・反乱→仏教の力で国を守る→国分寺・国分尼寺（国ごと）、東大寺と大仏（都）。行基＝民衆に仏教を広め橋や用水路をつくった。鑑真＝唐から来日し戒律を伝えた（唐招提寺）。630年から遣唐使。天平文化＝遣唐使がもたらした唐の文化の影響を受けた国際色豊かな仏教文化。正倉院＝東大寺の宝物を納めた倉（校倉造。シルクロード→唐→遣唐使で伝わった西アジア・インドの影響を受けた宝物も）。古事記（712年）・日本書紀（720年）＝歴史書／風土記＝地理書／万葉集＝和歌集（約4500首・万葉仮名）。

年表（12ページ）と合言葉

589 隋が中国を統一／603 冠位十二階／604 十七条の憲法／607 遣隋使（小野妹子）／618 唐がおこる／630 遣唐使が始まる／645 大化の改新／663 白村江の戦い／672 壬申の乱／701 大宝律令／710 平城京／712 古事記／720 日本書紀／743 墾田永年私財法／794 平安京（次の単元）

合言葉：「冠位は人を選ぶ、憲法は心構え」／「蘇我を倒して、土地も人も国のもの」／「国司は都から、郡司は地元の豪族」／「なんと（710）りっぱな平城京」／「租は稲、調は特産物、庸は布」／「開いた田はいつまでも私財、公地公民がくずれ始める」／「国ごとに国分寺、都に東大寺と大仏」

確認問題の答えと解説

1【2ページ】
(1) 摂政 (2) 推古天皇 (3) 蘇我馬子 (4) 冠位十二階 (5) 和 (6) ×
聖徳太子は、推古天皇の摂政となり、蘇我馬子と協力して、天皇を中心とする政治のしくみをつくろうとしました。十七条の憲法は、国民が守る法律ではなく、役人の心構えを示したものです。【2】
(7) (例) 家がらにとらわれず、才能や功績のある人を役人に取り立て、天皇を中心とする政治のしくみをつくるため。
入れる語：「家がら」「才能や功績」「天皇を中心」。豪族の家がらで役目が決まっていたのを、才能で選ぶように変えました。【2】

2【3ページ】
(1) 遣隋使 (2) 小野妹子 (3) ア (4) ウ (5) イ (6) 法隆寺 (7) B
遣隋使の目的は、隋の進んだ制度や文化を学ぶことです。手紙で隋の皇帝と同じ「天子」を使ったのは、隋と対等な立場を示すためです（皇帝に高い地位を認めてもらうのは、倭の五王のころです）。飛鳥文化は日本で最初の仏教文化で、法隆寺は聖徳太子が建てたと伝えられる世界最古の木造建築です。写真Bが法隆寺です。【3】

3【4ページ】
(1) 中大兄皇子 (2) 中臣鎌足 (3) 蘇我蝦夷と蘇我入鹿 (4) 大化の改新 (5) ウ (6) ×
645年、中大兄皇子と中臣鎌足が蘇我氏を倒し、唐の制度にならって天皇を中心とする国づくりの改革を始めました。それまで皇族や豪族が支配していた土地と人々を、国が直接支配する方針が公地公民です。大化の改新は、倒した事件だけでなく、その後の改革全体を指します。【4】

4【5ページ】
(1) 聖徳太子の政治が始まる（冠位十二階・遣隋使など） (2) 618年 唐がおこる (3) 防人 (4) イ (5) 天武天皇（大海人皇子） (6) ウ→エ→ア→イ (7) 藤原京 (8) 天智天皇
隋が中国を統一すると、日本では聖徳太子の政治が始まり、唐がおこったあと645年に大化の改新が始まりました。唐と新羅に白村江の戦いで大敗したため、九州北部に防人を置き、西日本に山城を築いて守りを固めました。古い順は、大化の改新（645）→白村江の戦い（663）→壬申の乱（672）→平城京（710）です。藤原京は持統天皇がつくった、日本で初めての本格的な都で、中大兄皇子はのちに即位して天智天皇になりました。【5】

5【6ページ】
(1) 大宝律令 (2) 律令国家 (3) イ (4) 太政官 (5) ア (6) 大宰府 (7) 里 (8) 国府
律は刑罰のきまり、令は政治のしくみや税などのきまりです。国司は都から送られた貴族、郡司は地方の豪族です。九州北部の大宰府は、外交と防衛にあたりました（「大」に点はつけません）。全国は国・郡・里に分けられ、国司は国の役所（国府）で政治を行いました。【6】

6【7ページ】
(1) 710年 (2) 長安 (3) 平城宮 (4) 朱雀大路 (5) 東市 (6) 奈良時代 (7) 和同開珎 (8) 碁盤
平城京は、唐の長安にならって奈良につくられた都です。図は北が上なので、右側のウは東市です。北の中央のアが平城宮、そこから南へのびるイが朱雀大路です。道路は碁盤の目のように区画されていました。【7】

7 【8・9ページ】

(1) 班田収授法 (2) 口分田 (3) 口分田の収穫の約3%の稲 (4) 自分たちで都まで運ぶ (5) 都で働く(労役)かわりの布 (6) 墾田永年私財法 (7) 荘園

租は稲で地方の役所へ、調と庸は自分たちで都まで運びました。口分田は、6年ごとの戸籍にもとづいて6歳以上の男女にあたえられ、死ぬと国に返しました。人口が増えて口分田が足りなくなり、743年に墾田永年私財法が出されました。【8・9】

(8) (例) 新しく開墾した土地を私有地にしてよいとされ、貴族・寺社・豪族が開墾して私有地を広げたため、国が土地と人々を直接治められなくなったから。

入れる語：「開墾」「私有地」「貴族・寺社」もあるとよい。【9】

8 【10・11ページ】

(1) イ (2) ア (3) 唐招提寺 (4) 遣唐使 (5) 正倉院 (6) ウ (7) 風土記 (8) 万葉仮名

聖武天皇は、国ごとに国分寺と国分尼寺、都に東大寺を建てさせました。行基は民衆の間で仏教を広め、鑑真は唐から来日して唐招提寺を開きました。天平文化は、遣唐使がもたらした唐の影響を強く受けた国際色豊かな仏教文化です(エは飛鳥文化の説明)。【10・11】

9 【12ページ】

(1) 冠位十二階・十七条の憲法・遣隋使 (2) 唐 (3) 大敗して守りを固めた (4) 長安 (5) ウ→オ→ア→エ→イ

古い順は、大化の改新(645)→白村江の戦い(663)→大宝律令(701)→平城京(710)→『日本書紀』(720)です。【12】